

2019年度行動計画及び実績

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	担当部署	2020年3月末最終報告
1. 独自性と優位性の強化に係る取組み		(1) 教員と教育・研究 (2) 魅力あるカリキュラムと分かりやすい授業 (3) インターンシップ (4) 学生プロジェクト支援と起業家の育成促進	(重点的な取組み)	◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半
		・両学科共に、他大学との差別化を図り、卒業生像の整理を反映したDP、CP、APの見直しを、早急にすすめ、対外的にわかりやすくアピールできるものとする。	経営戦略会議 両学科 教務委員会	○ ・DPを決定し、理事会・評議員会に提出。 ・CPについて両学科で調整中。 ・APは入試制度に合わせて更新。 ・理事会での指摘事項を踏まえ、卒業生と就職先企業への調査を実施し取りまとめ。 ・本年度から卒業生にDPの中でどのような力が身に付いたかを示すディプロマ・サブプリメントを交付。 ・3月13日に予定していた卒業式は、新型コロナウイルスの影響で中止し、研究室ごとの学位記授与となった。
		・大学全体の教育研究力を高め、我が国のこれからのものづくりを先導するため、大学院の活性化方策を検討し、改革を進める。 ①大学院のDP、CP、APの見直し ②大学院の学納金の適切な見直し	経営戦略会議 大学院研究科運営委員会	△ ・活性化部会、研究科運営委員会で取りまとめ中。 ・学納金の見直しは6月に実施済み→来年度在学生に適用。
		・両学科2年生の必修インターンシップ実施年度(2020年度)に向け、以下のような学生への指導力を増強する。 ①インターンシップの受入先企業との事前面談による学生の期待する研修内容の明確化 ②「社会人基礎力育成講座」による研修意欲の醸成 ③働く上での基礎的なマナーの向上に向けた指導徹底 ④今年度は対象学年の増加に対応した成果発表会の実施プログラムの変更 ⑤成果発表会への参加企業に対する本学の施設見学会等の実施	学生課 両学科	◎ ・製造学科3年生と総合機械学科2年生を対象に157名のISを実施し、9/30と10/1に分けて成果発表会を開催した。 ・途中で中止となった学生に関しては、原因分析し、対応策を来年度にFB。 ・今年度より、学内IS(旋盤/教務職員補助)を増加させ来年度の必修化に向けた対応を試行した。 【総合機械学科】 ・本年度は95名の基礎ISを実施した。 【製造学科】 ・本年度は59名のISAを実施した。 【建設学科】 ・本年度は179名の基礎ISを実施した。
		・本学にふさわしい新しい教養教育のあり方について、検討し、構築する。	教務委員会 教務課 経営戦略会議	◎ ・5回の教養教育専門部会が開かれた。1回(7/1)教養科目について、2回(8/8)学科で必要な教養科目を各学科で検討し話し合った。3回(10/9)ディプロマポリシーに合った教養科目を検討、4回(12/24)専門部会からの提言の検討、5回(2/14)提言最終版の取りまとめ検討。
		・新入生が本学に親しみ、誇りを持てるように、両学科の初年次教育のカリキュラムを検証し、より一層の推進を図る。	教務委員会 両学科	◎ ・フレッシュマンゼミの内容を見直し、来年度は段ボールカーに取組む予定。【総合機械学科】 ・創造プロジェクトIで比較的若い卒業生の体験談を披露する機会を設けた。【建設学科】 ・教養教育の検討ともすり合わせ予定。
		・次世代に向けた学科の再編等の検討に着手する。	経営戦略会議 両学科 教務課 総務課	◎ ・学科再編検討部会において、以下の2大項目についてメリット、デメリットを検討した。 ①学科再編の可能性として、木造建築学科、マテリアル学科等を検証し、学科とコースの考え方も検証した。学科の新設については当面見送り、両学科のコースの改編を検討する。 ②定員数は現状維持か、増加の可能性があるか入試や就職を踏まえ検証した。学部定員及び両学科の定員のバランスは維持する。
		・高校等の教員を対象として、免許更新プログラムを実施する(2019年の12月を目途とし、6月までにプログラムをつくり申請、公表)。	教務委員会 教務課	◎ ・12月21日(土)に実施済み。 ・参加者は少なかったが、満足度は高かった。 ・2020年度は夏期で3日間(選択科目18時間分)を実施予定で準備中。
		・本学の独自性、優位性を明確にし、内外に周知する機会ともなる20周年事業の具体化を検討する。	経営戦略会議	◎ ・大学ブランディングに向けた教職員アンケートを実施。20周年記念事業部会を主体に教職員から事業アイデアを募集。9月から担当者、予算を精査し、併せて2年間にわたるPR活動についての検討を行い、概要を決定した。
		(継続的・発展的な取組み)		
		・総合機械学科の教員による少数リメディアル教育は、数学に特化して実施する。	総合機械(製造)学科	◎ ・アンケートを実施し集計を行った。その結果および今年度の反省点などに基き次年度の申し送り事項をまとめ、学科教務委員会で検討し次年度計画に反映。
		・両学科2年生の必修インターンシップ実施年度(2020年度)に向け、引き続き、以下のような取組みを推進する。 ①工業団地等の地域組合や協会へアプローチし、より多くの受入先企業、履修学生の希望に沿った研修先を確保 ②受入企業出席の下での、全学的なインターンシップ成果発表会の実施 ③10年間継続して支援いただいた企業を対象とした永年受入表彰を実施	就職・インターンシップ委員会 学生課	◎ ・新規工業団地などの開拓については、春期を予定していたが、コロナウイルス感染拡大に伴い、企業訪問を中止した。

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	2020年3月末最終報告		
			担当部署		◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半
		・総合機械学科では、3年生でインターンシップに行けない学生向けの特例措置として、当該学年の2年生の2Qに実施していた科目を特別に開講する。	総合機械(製造)学科	◎	・予定通り11講義を2Qに開講。
		・学長裁量経費、研究費の傾斜配分等による独自性・優位性のある企画を推進する。	学長 教務課	◎	・4～5月で募集し、20件以上の応募。面接を行い、7月初めに決定通知。1件を除き全てのプロジェクトが実施され、報告書が学長に提出された。
		・アセスメント・ポリシーの見直しや各種の指針やデータに基づき、次期の認証評価も念頭に置いた、PDCAサイクルによる検証を継続する。	教務課	×	年度末現在、ディプロマ・ポリシーが決定、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーは見直し中であり、アセスメント・ポリシーの再検討は継続中。
2. 入学定員確保に係る取組み					
	(1)魅力ある学科への発展 (2)アドミッション・ポリシーに沿った 入学者の確保 (3)入学前の自己学習 (4)本学の情報発信 (5)留学生支援 (6)女子学生支援 (7)経済的支援 (8)出身高校への学生動向のフィードバック	(重点的な取組み)			
		・今年度から、指定校推薦基準を上げたことに加え、留学生についても推薦基準に日本語学校での出席率90%以上の項目を追加し、受験者層の質向上を図る。	入試委員会 学生募集委員会 入試課	◎	・予定通り進捗。
		・DP及びCPを踏まえて、APの検討を実施する。	同上	◎	・APはDP確認後として検討中。 ・2021年度入試は予定通り検討中。
		・総合機械学科では、魅力向上委員会の発展的解消と新学科委員会(総合機械学科将来計画委員会(仮称))を設立し、総合機械学科新入生および女子学生の増加について重点的に取り組む。	総合機械(製造)学科 入試課	◎	・予定通り取り組んだが、女子学生の増加には至らなかった。
		・総合機械学科では、推薦入学者数の増減動向分析(推薦入学者を2018年度並みを目標とすることなど)や推薦入学者減少高校へターゲットを絞った、参与と連携した教員派遣説明、ロボコン本選出場の広報活用などを計画する。	総合機械(製造)学科	◎ ◎	・PRグッズを製作する金型の設計までを行った。 ・製造棟1Fに群馬銀行より寄贈された大画面パネルを利用して学生プロジェクト紹介動画を製作して活用開始した。学科紹介動画は、現在製作中。合わせて、授業案内パンフレットのコンテンツも見直しを実施した。 【総合機械学科】
		・総合機械学科では、オープンキャンパスの質の向上のため、見学の説明シナリオ、コース設定、展示物制作、4Sの徹底等を推進する。【4S=整理、整頓、清掃、清潔】	総合機械(製造)学科	◎	・3月～8月にかけて4Sを8回行なって、特に整理・整頓を徹底した。 【総合機械学科】
		・学部、大学院共に、特待生や留学生等の学費の減免制度を早急に見直し、優秀な学生の確保に資する。	経営戦略会議 教務課	◎ △	・留学生の学費減免制度の見直し実施(学年ごとの取得単位の下限を決め、学修を促す。2021年度入学生から適用) ・特待生の2年次以降の制度見直し実施。 ・在学生の優秀学生への減免制度新設は保留。
		・大学院生募集の広報強化に努め、大学院の教育研究の活性化を図る。	大学院研科運営委員会 入試課 教務課	◎	・大学院の魅力向上のための学科内のチームを立上げ。次年度も検討を継続予定。
	* 学生募集広報は、この項目に記述する。	・女子スカラシップ入試での女子学生の確保に努めるとともに、新設した専門学科・総合学科入試により工業高校等から優秀な学生の確保に努める。	学生募集委員会 入試委員会 入試課	◎	・予定通り進捗。 (専門学科入試実績7名)
		・入学予定者には、入学前課題を与え入学までの学習意欲の維持に努める。また、入学前課題の活用については、初年次教育への円滑な連結を検討する。	入試課 教務委員会 教務課	◎	・課題内容については現在、学科で検討している。なお、合格者全員に課題を課し、入学後のガイダンスで提出を求め、学科で活用する。また、早期合格者の課題取り組み状況について、進学アドバイザーが必要に応じてフォローや指導を行うこととしている。【入試】 ・建設学科の課題として1「身近な建物を調べる」、2「書き込みノート数学I」の2種を設定し、1月までの合格者には1と2の両方を、2月以降の合格者には1のみを課すこととした。【建設学科】 ・総合機械学科では、課題の洗い出し後、数学のe-learning化や英語の学生へのフィードバック化など4科目での改善を実行中。【総合機械学科】
		・入学した留学生へのワンストップ相談窓口としての留学生係の新設により、チューター制度や留学生向け奨学金制度の支援の充実など、留学生への全学的総合調整機能を強化する。	学生課 留学生委員会	◎	・留学生から随時ヒアリングをし、業務のブラッシュアップを推進している。

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	2020年3月末最終報告
			<p>◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半</p>
		<p>・留学生への日本語クラスを増強し、参加者数を増やすと共に、模擬試験などを実施する。あわせて、卒業後の就職に向けた取り組みとしての語彙の増強や面接対策など、課をまたぐ取り組みに発展させる。</p>	<p>◎</p> <p>・日本語クラスは定常的に実施し、その中で学生の意見を聞きながら授業改善を図っている。来年度は留学生係に引継ぎ、新たな取り組みに展開予定である。【教務係】</p> <p>・留学生の日本での就職に向けた新たな支援・取り組みを学生ごとに実施している。【学生課】</p>
		<p>・留学生のサポートのためのTA、SAを配置する。</p>	<p>◎</p> <p>・学科で必要と思われる留学生補助のためのTA/SA科目について、教員から希望を出してもらい、7月31日の学科教務委員会でTA/SAをつける科目について承認された。その後、学科会議でも承認された。【総合機械学科】</p> <p>・必要な科目について、実施済み。【建設学科】</p> <p>・来年度のための予算も計画中。</p>
		(継続的・発展的な取り組み)	
		<p>・学生募集については、直接高校生に接触する機会が最も重要であることから、オープンキャンパス、会場説明会、高校内ガイダンス、大学見学などの接触機会の拡充を図るとともに、高校への出前授業やインターンシップ高校生の受入れなどの高大連携事業の積極的な実施に努める。</p>	<p>◎</p> <p>・1月までは予定通り進捗していた。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響で、2020年3月のオープンキャンパスは中止、2～3月の各種ガイダンスは減少。</p>
		<p>・非接触者については、受験雑誌、Web、新聞、駅広告等での広報のほか、DM(紙媒体、Web、メール等)の増強により周知を図るとともに、多様なセグメント方法により多様な受験生に対応しつつ受験者層の質向上に努める。</p>	<p>◎</p> <p>・予定通り進捗。</p>
		<p>・多様な入学試験を実施するとともに、地方入試会場(6会場)を継続実施し、受験機会の提供に努める。</p>	<p>◎</p> <p>・予定通り進捗。</p>
		<p>・出身高校への学生の学修成果のフィードバックを徹底する(在学生の活躍、成績状況や就職先の情報提供、出身高校への在学生同行による高校訪問等、女子学生及び離島出身学生の母校訪問への交通費の補助など)</p>	<p>◎</p> <p>・予定通り進捗。</p>
		<p>・ものづくり奨学金や同窓会奨学金など、各種奨学金について説明会や掲示板による周知徹底を図り、多くの学生が申請するように努める。</p>	<p>◎</p> <p>・今年度、新たに日野自動車から寄付を受領。</p>

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	2020年3月末最終報告	
			担当部署	◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半
3. 退学率低減に係る取組み				
(1)学生との面談機会の増加と充実 (2)学生への精神的ケア (3)FD研修の推進	(重点的な取組み)			
	(2)学生への精神的ケア	・学生への精神的なケアとして、ふれあいルームの活用を学生や教員に促す。特に4月に行う健康診断のアンケートについて、カウンセラーがチェックし、今後の学生生活が心配な学生に直接連絡し、ふれあいルームへの来訪を促す。	学生課	◎ ・ふれあいルームの予約状況をサイボウズに掲載し、情報共有を開始した。
	(3)FD研修の推進	・退学者対策としてプロジェクトチームで検討した以下の点を実施する。 ①入学時点で試験成績下位層の学生の情報の共有 ②1年生の1～2Qの出席状況、単位取得状況、同一授業で2回以上の欠席などの課題のある学生との面談(できれば三者面談)を実施 ③両学科において、1年生を中心に学生との面談を増強 ④学生が気軽に相談できるように、教務係、学生支援係の窓口に相談コーナーを新設	両学科 教務委員会 教務課	◎ ・退学者対策専門部会にて検討中。 ・担任や先輩学生によるアドバイス方法の見直し等を検討中。【退学者対策部会】 ・きめ細かい面談、および学生カルテと学科会議での情報共有を継続中。【総合機械学科】 ・建設学科では、1年生の担任間で出席状況が芳しくない学生の洗い出し、情報共有を定期的に行っている。当該学生には声がけや注視を積極的に行っている。【建設学科】
		・新入生が本学に親しみ、誇りを持てるように、両学科の初年次教育のカリキュラムを検証し、より一層の推進を図る。(再掲)	教務委員会 両学科	△ ・フレッシュマンゼミの内容を見直し、来年度からは段ボールカーとすることで決定。【総合機械学科】 ・創造プロジェクトIで比較的若い卒業生の体験談を披露する機会を設けた。【建設学科】 ・教養教育の検討の中で、初年次教育への取り組み姿勢も明示。
		・入学前課題の活用について、退学率低減の観点から、内容や提出方法、入学後の活用などを検討する。	両学科 入試委員会 入試課 教務委員会 教務課	◎ ・課題の洗い出し後、数学のe-learning化や英語の学生へのフィードバック化など4科目での改善を実行中。【総合機械学科】 ・課題として1「身近な建物を調べる」、2「書き込みノート数学I」の2種を設定し、1月までの合格者には1と2の両方を、2月以降の合格者には1のみを課すこととした。【建設学科】
		・学生情報の適切な共有を円滑にするため、システム上の改良の検討を進める。	教務課	◎ ・各係等から出てきた情報共有希望を整理し、共有化に向けたシステム更新方法を検討し、来年度の予算化を実施。
		・休学者に関するデータなどを更に分析し、中退者対策にいかす。	教務委員会 教務課	△ ・退学者対策部会で検討中。
		・ティーチングポートフォリオについて、研修を行う等のサポート策を進め、FD等への活用を推進する。	経営戦略会議	◎ ・評価制度の見直しとあわせて実施済み。
	(継続的・発展的な取組み)			
		・引き続き、クラブ・サークル・プロジェクトの支援など、楽しいキャンパスづくりに努める。	両学科 学生課	◎ ・サークルの新規設立は5団体(バドミントン、文芸サークル、ゲーム・映像研究部、弓道同好会、アウトドアサークル)。【学生課】 ・技能検定や若年者ものづくり競技大会、技能五輪への出場者向けのガイダンスを実施し、参加を積極的に呼びかけている。【建設学科】
	・引き続き、4S活動や、学生の作品の積極的な展示など、快適なキャンパスづくりに努める。	両学科 総務課 広報委員会	◎ ・建設棟廊下の掲示板を教員および授業に割り振り、掲示物の管理をすることとした。【建設学科】 ・5/24、6/21、7/19、9/13、10/17、10/24に不定期であるがキャンパス美化活動を有志により6回実施。学内展示物確認のための巡回を実施し、精査を行った。 ・本部棟一階の展示スペースを学生の作品や教員の受賞盾など積極的に展示している。なお修学意欲醸成に向けて学生活動を広くPRすべく、学生の活躍や表彰者の話題をHP新着情報や吹上駅ポスター、雑誌広告等で紹介。 ・台風19号後のキャンパス周囲の美化活動も実施	

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	2020年3月末最終報告	
			担当部署	◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半
4. 就職率及び就職満足度の向上に係る取組み				
	<p>(1)一貫したキャリア教育の充実 (2)就職支援と学修対策との連携 (3)魅力的な就職先の拡大 (4)各種資格</p>	<p>(重点的な取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次からキャリア教育を充実するとともに、CPの見直しの一環として、キャリア教育をカリキュラムの中心に位置づける。 ・キャリア系科目の出席率の向上に向けた周知徹底を図るとともに、キャリアセンターの有効活用に向けたカウンセラーの効果的な配分を行う。 ・増加する外国人留学生の就職対策を強化する。 ①日本企業の採用文化を理解するための勉強会を実施 ②企業に対しては求人枠を確保するための積極的な提案を実施 ・本学に対し支援・協力をいただいている優良企業(奨学金、教育研究推進連絡協議会、埼玉県地域連絡協議会等)への就職者数の拡大を図る。 	<p>就職・インターンシップ委員会 学生課 教務委員会 教務課</p> <p>両学科 学生課</p> <p>就職・インターンシップ委員会</p> <p>就職・インターンシップ委員会 学生課</p>	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力育成講座については、例年通り実施し、来年度のプログラムを検討した。 ・教養教育科目としての位置づけは、教養教育専門部会で検討中 ・学生の動向を踏まえた上でキャリアカウンセラーを効果的に配置し、学生の支援を行っている。 <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要企業説明会の早期実施(6/3)による企業インターンシップへの参加動機付けとSPIの早期対応を開始。 ・製造3年、総合機械2年の157名が参加してインターンシップ成果発表会を実施した。(9/30,10/1) <p>【総合機械学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ早い時期に学生が建設業界の仕事について実感を持てるよう1年次の「フレッシュマンゼミ」での卒業生との交流や「建設職能論」での多様な職種の方々の話を聴く機会を設けている。 ・企業の方々との打ち合わせなどの機会毎に、インターンシップの受け入れを打診するなど、インターンシップ受入企業の新規開拓に努めている。【建設学科】 <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの留学生が参加できるよう周知徹底を図るとともに留学生同士のネットワークを活用して参加を促した。 <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施。 ・卒業生と就職先企業への調査を12月～1月で実施し、その成果を来年度以降のカリキュラム内容の改善に反映予定である。
		<p>(継続的・発展的な取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の志望先への就職率向上を目指し、教員・学生課・キャリアコンサルタントとの連携によるキャリア教育の充実に努める。 ①1年次から4年次までの授業としての「社会人基礎力育成講座」を開講 ②「インターンシップ」「就職セミナー」「就職力強化合宿」「SPI試験対策講座」「企業研究交流会」「現場見学会」「個別会社説明会」等の各種施策の企画・開催 ・教職員による外部イベントを利用した「名刺交換会」等に積極的に参加し、求人情報など有力な情報を得て、学生に周知徹底を図る。 	<p>就職・インターンシップ委員会 学生課</p> <p>同上</p>	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施。 <p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施。 ・卒業生と就職先企業への調査については上述。
5. ものづくり研究情報センターの機能強化及び科学研究費・産学官共同研究等の外部資金の獲得強化に係る取組み				
	<p>(1)ものづくり研究情報センターの機能強化及び業務の拡充 (2)科学研究費等の獲得 (3)共同研究・受託研究等の獲得 (4)知的財産の創出・活用</p>	<p>(重点的な取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得の一策として、社会人や高校教員などを対象とした新たな教育研修を企画、開催することができないか検討する。 ○新たな教育研修の企画策定 1件 	<p>経営戦略会議 ものづくり研究情報センター 教務課</p>	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許更新時講習を今年度、新たに実施した。受講者数は少なかったが、来年度に繋げる計画としている。 ・社会人向けの実務的な研修を来年度後半に試行できないか検討中。 ・企業ニーズを把握するため、経営者協会等の協力を得て、ヒヤリングを行った。
		<p>(継続的・発展的な取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究上の外部資金に係る業務の合理化、改善に取り組み、研究費獲得の拡大を目指す。 ①科学研究費などの公的機関の公募資金についての学内周知から申請までの手続きの改善、研究倫理教育等の適切な研究環境の確保 ②共同研究・受託研究等の民間からの外部資金受入れの受付、執行についての学内周知の改善、マッチングの円滑化 ○企業等との研究契約件数 40件 ○ものづくり現場活性化支援件数 3件 ③金融機関、行政等とのタイアップによる対外的な研究シーズのアピール ○展示会、セミナー実施 5件 	<p>ものづくり研究情報センター 両学科 総務課 教務課</p>	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和元年度科学研究費への申請予定件数 15件 ②共同研究・受託研究・奨励寄附研究の受入れ件数 53件 ものづくり現場活性化支援事業 3件 ③展示会、セミナー実施(参加を含む)。 展示会 5件 セミナー 2件 引き続き、新規受入れの案件について、円滑な契約手続きにより、成約の増を目指す。

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	2020年3月末最終報告		
			担当部署	◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半	
		<p>・「知的財産ポリシー」に基づき、教育研究の成果を産業界に活用すべく、研究者による職務発明を推奨する。外部機関との共同研究等においては、適切な権利保護と役割分担の下、知的財産の管理、活用を行う。</p> <p>○特許出願2件、審査請求2件(共同出願を含む) 各種展示会やセミナー等の機会を活用し、本学の研究シーズを発信しつつ、積極的に技術移転を図る。</p> <p>過去の職務発明の趨勢及び研究シーズの進展を踏まえ、必要経費を予算計上する。</p> <p>○平成31年度特許出願等経費 60万円</p>	ものづくり研究情報センター	◎	
6. 大学運営に適切な人材計画に係る取組み					
	(1)教育職員 (2)事務職員	<p>(重点的な取組み)</p> <p>・「高校生に憧れを、在学生に自信を、卒業生に誇りを持たせる」や、「いつかあなたを卒業生として自慢したい」を、教職員の共通認識として確認する。 このため、この共通認識をインナーブランディングとし、組織として推進するためのFSD研修(教員と職員が一体となったSD研修)等を行う。</p> <p>・組織目標に向けて教育力・組織力を強化する観点から、教職員の勤務評価を改訂し、実施する。</p> <p>・教員と職員の協働による大学運営をより進めるために、教員も含めたFSD研修を推進する。</p> <p>・教育職員の定年退職による欠員補充は、全学的観点から、学長中心に採用方針を定めて行う。また、各種業務の担当引き継ぎ等の制度の効率化を図る。</p> <p>・教務職員の位置づけ、募集方法を検討</p> <p>(継続的・発展的な取組み)</p> <p>・教育職員については、学生数に見合った教員数の確保に努める(カリキュラムの共有化等による負担の軽減)。</p> <p>・事務職員については、適切な配置及び業務遂行のため、新卒者、既卒者の事務職員を採用する。</p>	<p>総務課 教務課 FD・SD推進委員会 広報委員会</p> <p>総務課</p> <p>FD・SD推進委員会</p> <p>学長 総務課</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>△</p> <p>◎</p>	<p>①3月に実施した教職員アンケート、4月に実施した学生アンケートを学内で分析。広報戦略、ブランディングの方向性を確認し、具体的活動をスタートさせた。</p> <p>②ロゴ関連、HPなど外部協力会社を選定し、実作業に入った。</p> <p>③広報戦略は9月末で確定し10月末に周知、インナーブランディング活動については10月から進め、一定の成果に繋がった。</p> <p>④インナーブランディング活動のひとつとして、在学生に配付するブランドコンセプトブックの制作を進めた。</p> <p>⑤大学ブランドの構築および母校愛の醸成を図るため、大学グッズの2020年度の販売を検討した。</p> <p>・8月に規程改正済み。今年度評価から実施。</p> <p>・10/2 認証評価に関する研修、10/26 ドラッカーシンポジウム実施。12月11日に第3回(他大学に学ぶ)実施。</p> <p>・学長と調整の上、総合機械学科2名募集を行ったが、採用は1名となり、1名分は継続募集を進めることとなった。</p> <p>・総合機械学科 教務職員1名採用。総合機械学科のもう1名は継続募集中。</p> <p>・欠員分については2020年度採用に向け、募集中。募集分野も調整済み。</p> <p>・既卒者5名を採用。</p>
7. 支出削減に係る取組み					
		<p>(重点的な取組み)</p> <p>・試験機、計測器、機械等の資産の保有状況を共有化し、資産の有効活用を図る。</p> <p>・事務の抜本的な合理化を図り、生産性の向上を図る。</p> <p>・教育職員勤務成績評価自己評価票、ポートフォリオ及び学長面談などにより研究費追加配分額を決定し研究費の適正配分を進める。</p> <p>・各種の経費支出について、多面的な検証を進める。</p> <p>(継続的・発展的な取組み)</p> <p>・収入見込み額をベースとした支出予算とする。</p>	<p>総務課 経営戦略会議</p> <p>同上</p> <p>学長 総務課</p> <p>経営戦略会議</p> <p>総務課 経営戦略会議</p>	<p>◎</p> <p>△</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>・資産の保有情報をサイボウズに掲載して、学内での共有済み。</p> <p>・継続検討中。</p> <p>・年度当初に学長面談を実施し、7月に各教員への配分を決定済み。</p> <p>・前年度執行状況を確認。 ・今後の経費配分については検証を行っている。</p> <p>・予算編成方針に基づき、予算編成終了。</p>

重点施策	中長期経営計画項目	2019年度行動計画項目	2020年3月末最終報告	
			担当部署	◎は予定通り進捗 ○は概ね進捗、一部積み残し △は積み残しが過半
		<ul style="list-style-type: none"> ・本学の独自性、優位性を明確にし、内外に周知する機会ともなる創立20周年事業の具体化を検討する。 	経営戦略会議 広報委員会	◎ ・大学ブランディングに向けた教職員アンケートを実施。20周年記念事業部会を主体に教職員から事業アイデアを募集。9月から担当者、予算を精査し、併せて2年間にわたるPR活動についての検討を行い、概要を決定した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・本学独自の支援組織である「ものづくり大学教育・研究推進連絡協議会」の会員数増強を進める。 	総務課 ものづくり研究情報センター 学生課	◎ ・企業団体の大学見学、インターンシップ成果発表会、企業研究交流会等、企業の来学に合わせて、入会促進活動に取り組み、周知を図る。 ・2019年度末現在、会員数は207団体（2018年度末は182団体）。
		<ul style="list-style-type: none"> ・上田惇生名誉教授を偲ぶ「ドラッカーシンポジウム」を、ドラッカー学会と協力して開催する。 	教務課	◎ ・（再掲）学園祭と同時に開催し、FSDとして位置付け、ビデオを学内で共有した。
		(継続的・発展的な取組み)		
		<ul style="list-style-type: none"> ・広報コンテンツになり得るアピール性の高い教育研究成果、学生活動、地域交流、国際協力等の情報を収集し、効果的な広報活動を積極的に進める。 	広報委員会 総務課	◎ ・主な広報活動として、 ①プレスリリースのテンプレート化を進め、運用スタート。ニュースリリースとして5件をメディアに配信。 ②集めた情報をスピードを上げて、HP新着に掲出。掲出量は前年より増えている。 ③大学通信の刷新を検討。2020年以降のプランと外部協力会社を決定した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・両学科の魅力をホームページやSNSなどの媒体を含めてタイムリーかつ積極的に宣伝する。 		◎ ・効果的なPRをするためにスピードを上げたワークフローを5月に提案。掲出数も伸び、掲出のスピードも上がっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・その他、大学見学や学内展示に関する宣伝、広報を進める。 		◎ ・広報委員会による展示掲示の見直しを図り、適宜巡回し「施設・設備投資計画部会」へ提案を行っている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流では、広報効果はもとより、地域貢献としての重要度、学生への教育的効果等を鑑みて、各種イベントの集中と選択を実施する。 		◎ ・「地域連携基本方針」を策定（9月）。各種イベントの集中と選択を実施した。地域連携の上位にある産学官連携を含めた体系化と具体的な活動方針を検討中。今後の課題は成果・KPIの設定、地域連絡協議会等との連携強化を進めた。
10. 財務計画				
		(重点的な取組み)		
		<ul style="list-style-type: none"> ・財務改革のための歳入歳出の見直しを行う。あわせて、財務運営の方策（人材やノウハウ導入など）を検討する。 	総務課 経営戦略会議	◎ ・歳入歳出の見直し及び財務運営の方策を検討中。
		<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の獲得の一方策として、社会人や高校教員などを対象とした新たな教育研修を企画、開催することができないか検討する。（再掲） 	経営戦略会議	◎ ・免許更新時講習を今年度、新たに実施した。（再掲） ・社会人向けの実務的な研修を来年度後半に試行できないか検討を進めた。 ・企業ニーズを把握するため、経営者協会等の協力を得て、ヒヤリングを行った。（再掲） 【もの研】 ・三大学連携事業としては、 ①学園祭の連携展示、バスツアー実施。 ②2月10日相互発表会実施。 ③次年度に向けた協議を展開し、地域全体の連携体制に近づけつつある。
		(継続的・発展的な取組み)		
		<ul style="list-style-type: none"> ・学納金の改訂を踏まえた歳出入の計画見直しを行い、財務状況の共有を図る。 	総務課 経営戦略会議	◎ ・補助金制度（配分方法の変更点、申請内容等）の情報について、全教職員に共有化を図っている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降の施設設備更新を実行するための財源確保を踏まえたキャッシュフローの黒字額の増加を目標とする。 		◎ ・予算編成方針に基づき、予算編成終了。 ・学納金の見直しを踏まえ、財務計画の策定を行った。